

地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	アソビシロ
役職	
氏名	田尻泰崇
着任日	令和 6 年 6 月 1 日

活動月	令和 7 年 3 月（着任 10 ヶ月）
主な活動	1. 地域みらい留学 令和 6 年度まとめ 2. ゴッソイ祭り動画に関して 3. 薩南工業高校 今後について

1.地域みらい留学 令和 6 年度まとめ

今年度も終盤にさしかかり、地域みらい留学制度の事務局と市役所の担当職員を交えて令和 6 年度のまとめと今後の展開について話し合いを行いました。

昨年の 6 月から協力隊着任し、この制度について現在まで進めてきました。まずは高校との調整を行い、オンライン説明会にて魅力を伝え、対面で 6 月に大阪で開催された説明会に参加してきました。この説明会は他の参画校がどのように運営をしているのか、募集を行っているのか視察もかねての参加となり、全国の様々な高校と話をし何が必要になってくるのかが明確になった有意義な機会でした。

地域との連携では学校生活以外の学生生活をサポートする面で事業者の方と共に話を進めてきました。別の地域から留学することとは衣食住がしっかりしていなければなりません。地域みらい留学参画校もこの部分は必ず親御さんが心配する項目であることを念頭にあらゆるサポートを構築していました。南九州市もこの部分を重要事項とし進めていきます。地域事業者たちのご協力があり、寮の環境整備や現存している設備の利用などでスムーズに話が進む部分もありましたが、そこに付随して様々な課題も見えてきました。それは学生たちの休日のサポートの仕方、急用事にいかに迅速にかつ保護者、地域と連携が取れるかというシステム構築などです。留学に参加する

学生本人と預けていただく親御さんたちに安心してもらえるようなシステムを地域と行政で議論しあいながら設計している段階になります。様々な問題パターンをシンプルに最短ルートで解決できるようなグループ構成をコーディネーターとして調整していきます。

令和7年度は本格的に募集を行なって実際に留学する学生を集めなければなりません。前述した衣食住、生活サポートの面は大前提として、都心の学生は地方の高校にどのような経験を望んでくるのかを逆算し、短い時間で効果的にそこに応えられるような対策を高校と議論していかなければなりません。着任してから高校への行事に参加し、どのような部分がフックになるのかを考えてきました。都会の時間は殺伐として時間の流れがとても早く感じます。人間関係も淡白であり冷たさを感じるところもあるかと思います。地方の時間の流れ方はこれと異なっており、地域の方々と話す機会が多く淡白な関係性とは異なった自分の生活に寄り添う時間の過ごし方ができると思います。その点、川辺高校になりますが、地域のイベント参加や地域住民との交流機会が多いため、この関係性と時間の過ごし方は一つの強みになると考えています。そこを求めてくる学生もゼロではないと思うので説明会ではその部分にもフォーカスを当てて説明ができるように対策していきます。

このように前年度で見えてきたことを参考に、地域、高校、行政の協力体制をしっかりと固めて令和8年度に留学生を万全の体制で迎えらるよう引き続き進めていきます。

2.ゴッソイ祭り動画について

昨年の11月に顚娃町で行われたゴッソイ祭りに記録係として参加してきました。なぜこのゴッソイ祭りに参加したのかというと、私の受け入れ先であるアソビシロ【顚娃の公園事業やカフェ経営を行っている一般社団法人】が参加しているのと顚娃高校の学生も展示にて参加しているということだったので、どの様に地域のお祭りに関わっているのかを見てみたいという目的がありました。

地域おこし協力隊活動報告書

このゴッソイ祭りに関してですが、南九州市に来るまで正直聞いたこともありませんでした。市内でいうと六月灯やサマーナイトの印象が強いので、ゴッソイ祭りについて聞いたことがあるか尋ねたところ、名前だけ知っているという反応が多かったです。しかし実際にこのお祭りに参加して、沢山人で溢れかえる非常に盛り上がるお祭りであることが分かりました。頤娃高校の学生たちも多くのお客さんに囲まれて自分たちの展示を楽しみながら説明している姿が印象的でした。ゴッソイ祭りは現状でも大きなお祭りですが継承者が減ってきているそうです。参加者を増やすためにも魅力的な祭りであることが伝わるような映像作品を目標に編集しました。ゴッソイ祭りの始まりから歴史を感じられる作品として完成したので、今後宣伝広報にてお目にかかることがあれば嬉しいです。自分が関わっている地域に貢献ができたという点でとてもいい経験になりました。

今後も地域の役に立てるような活動をしていきたいと思っています。



3. 薩南工業高校 今後について

3月17日に薩南工業高校にて今後のことについて話し合いが行われました。現存の寮の利用と食事提供や学生サポートについて地域と行政とで、どの様に連携をとっていくかを検討しました。寮を利用する学生も増え、これから地域みらい留学における学生数の増加を想定して行政、地域、高校が各々、協力しあいながら学生と保護者が安心して高校生活を送れるような体制を考えております。地域みらい留学の参画校にいくつかお話を伺ったところ、スムーズに学生たちのサポートができている団体は、この地域と行政、高校の関係性がバランスよくお互いのできることを補い合っている現状であることが分かりました。これらの例を参考に完璧なシステムは難しいので最良のシステム構築を目指していきます。今後も地域と行政と学校が密に意見交換をしあって良い方向へ前進できたらと考えているので引き続きコーディネーターとして調整を行なっていきます。